

## パブリックコメント実施結果【概要】

## 1 意見募集期間

令和4年12月5日（月）～令和5年1月5日（木）

## 2 意見提出者数（件数）

38人（129件）

## 3 意見提出方法

電子メール：33人 持参：3人 郵送：1人 FAX：1人 計38人

## 4 意見概要

項目	主な意見	意見数
学校規模（適正規模）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模校のメリットの方が小規模校のメリットより大きいことを強調しているように感じる。</li> <li>・市の実態に合っているのか。</li> <li>・小規模校の方がきめ細かな指導が可能であり、その強みを活かす教育を行うべきである。</li> <li>・適正規模の話をしていながら特認校を認めるのであれば小規模でもいいのでは。</li> </ul>	16
城山台小 （大規模校の適正化・急増対策等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンモス校への対応について説明会はないのか。</li> <li>・他校でできている学習体験ができないデメリットをもっと考えてほしい。</li> <li>・いずれ過大規模が改善されていくからというような結論はしないでほしい。</li> <li>・城山台校区内に小学校及び中学校を新設するべきである。</li> <li>・スクールバスで近隣学校へ送迎できるようにしてほしい。</li> <li>・木津中・木津南中は生徒数に対して施設は大丈夫か。</li> <li>・毎年のクラス替えは教員も含め関係性が希薄となるので工夫すべきである。</li> <li>・居住地が何丁目かで登校する中学校が決まっているが、距離で分ける、もしくは選択制にする対応が必要と考える。</li> </ul>	19
通学・校区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学距離の基準を見直すべきである。</li> <li>・スクールバスを。</li> <li>・スクールバスは遠くなるほど、子どもたちや保護者、そして教員の負担も大きい。</li> </ul>	7
小中一貫教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫教育におけるデメリットも示してほしい。</li> </ul>	20

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「小中一貫」の成果は計画（案）通り期待できるのか。</li> <li>・義務教育9年間の制度になれば、小学校高学年の役割や最上級生としての意識が薄れるのではないか。</li> <li>・「中1ギャップ」という言葉には科学的な裏付けがない。</li> <li>・減少傾向にある時だからこそ、子どもの声に耳を傾け、希望ある学校・地域をつくる良い機会ではないか。</li> <li>・学校規模を根拠に小中一貫校を推し進める議論にしか聞こえない。</li> <li>・人間関係や相互の評価等が固定化しやすくなるのではないか。</li> <li>・期待する成果の具体例をあげるべき。</li> <li>・小中一貫は人口を減少させる施策であり見直しをすべき。</li> <li>・9年となれば、発達段階が異なる子ども同士でいじめが起きやすいのではないか。</li> <li>・同年齢でも活動制限がある現状を踏まえた計画になっていない。</li> <li>・成長度合いが異なる児童生徒が同じ学校施設を使うことが活動を阻害することにならないか。</li> </ul>	
地域選択	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メリット・デメリット等を具体的に説明するべきである。</li> <li>・減少が著しい小学校を特定地域選択制の選択対象校とすべきと考える。</li> <li>・スクールバス等の送迎負担軽減が必要である。</li> <li>・地域社会での小学校の必要性・適切な人数での環境づくりのためには特認校制を取り入れるのがよい。</li> <li>・学校選択を検討するのであれば中学校区のくくりは不要である。</li> </ul>	6
現施設存続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に保育園・小学校があるからこそ人が住む可能性がある。</li> <li>・学校を残すことが若い世代を呼び、地域の活性化に必ずつながる。</li> <li>・今ある施設を生かす方向で議論を進めてほしい。</li> </ul>	8
経費・施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の経費の多くは人件費であり、学校以外としての施設維持でも経費は必要である。</li> <li>・学校体育館講堂にエアコンを設置してほしい。</li> <li>・維持費の観点再編の対象にしてほしくない。</li> </ul>	5
いじめ ・不登校等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめや不登校、虐待等多くの課題をもつ児童生徒の数や具体例・対策の記述をするべきである。</li> </ul>	7

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校の良さを評価し生かすべきである。</li> </ul>	
特別支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本理念などに「インクルーシブ教育」、「障害のある子どもない子ども共に学ぶことを目指す」や「共生社会」が必要ではないか。</li> <li>・特別な支援を要する児童生徒について具体的な記述をするべきである。</li> </ul>	5
教員育成 ・労働時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育学校は一つの学校になり、教職員が減ることによる課題はないのか。</li> <li>・指導のための要員の確保が必要である。</li> <li>・先生の負担が増えないようにすべきである。</li> </ul>	7
住民との協議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民との協議の場は必要であった。</li> <li>・小学校区単位で協議の場を設けるべきである。</li> <li>・多様な意見をきけるようにメンバー選定に工夫をされたい。</li> </ul>	7
小さい学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究機関等の資料でも少ない人数にする方が効果あることが示されている。</li> <li>・少人数を生かした指導の充実をすべきである。</li> <li>・クラスの人数を減らし個別最適な学びを実施すべきである。</li> <li>・きめ細かな指導の在り方を考えてはどうか。</li> </ul>	8
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過疎化対策として学校の統廃合は矛盾している。</li> <li>・大きなビジョンがあって各校の特色の創出の検討をし、存続の意義と市政の継続から、市内外での移住促進を進めるべきである。</li> <li>・地域防災拠点の観点は切り離して在り方を検討してはどうか。</li> <li>・学校の配置は、木津川市の総合的な都市開発計画と大きく関係している。</li> </ul>	7
パブリックコメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・募集期間が1か月程度しかなくあまりにも短期間である。</li> <li>・地域の組織を通じて住民に周知されていない。</li> <li>・パブリックコメント結果を踏まえしっかり議論をすべきである。</li> </ul>	3
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民説明会を求める署名からも向き合うべきである。</li> <li>・何年を考えている計画か。</li> <li>・委員会で意見が多く出ていたが、住民の意見は反映されずに計画作成されている印象がある。</li> </ul>	4

※この表の意見数はパブリックコメント意見数を項目毎に分類したものです。